

# NCNL 図書館だより

No.12 Dec. 16 2002

## 上越教育大学附属図書館との相互協力に関する 交流協定を締結

去る9月4日、当図書館と上越教育大学附属図書館との間で、懸案であった相互協力に関する協定を締結しました。締結の席には、上越教育大学側からは渡邊隆副学長、小宮三弥附属図書館長、関川雅彦図書課長、瀧澤政之管理係長、当大学及び短期大学からは中島紀恵子学長、富川孝子大学図書館長、関谷伸一短大図書館長、斎藤博事務局次長、池亀玲子図書学生係長が出席しました。

本協定は、両大学の教職員と学生に対して、それぞれの施設を利用するにあたり相互に協力し合い、



図書資料の閲覧・貸出及び文献複写の利用の便宜を図ることを目的としています。それぞれの利用者は、各図書館に直接出向くことにより、施設の利用、資料の閲覧・貸出などのサービスを学内利用者とはほぼ同じ条件で受けることができるようになりました(ただし学外利用者としての一部制約もあります)。これを機会に両大学間の相互交流が促進されることを大いに期待します。ご努力頂きました関係者の皆様に、厚くお礼申し上げます。(短大図書館長 関谷伸一)

### ～上越教育大学附属図書館の紹介～

上越教育大学教務部図書課長 関川雅彦

上越教育大学附属図書館は、キャンパス中央の噴水広場に面した場所に位置しています。建物は3階建てですが、キャンパスの建物群が渡り廊下でつながっているため、閲覧スペースへの入口は2階にあります。開館時間は夏季・冬季休業中を除き平日は午前9時から午後10時まで、土曜日は午前11時から午後5時までです。

蔵書は約28万冊、受入雑誌は約2,400タイトルで、貴重書を除き資料を直接手にとって閲覧することができる開架方式を採用しています。蔵書の中心は教育関係の図書約5万冊で、その中には昭和40年代以降の全国の小中学校で採択された教科書が含まれています。その他に心理学関係図書約6,000冊、精神医学関係図書約1,200冊、上越市を中心に新潟県に關係する郷土資料約2,000冊を所蔵しています。

マルチメディアコーナーには、教育・心理学関係の文献データベースや電子ジャーナル(約2,000タイトル)、CD-ROM版の事典類などにアクセスできるパソコンが24台設置され、自由に利用することができます。視聴覚資料はビデオテープ、CD、LD、DVDなど教育関係を中心に約2,000点で、AVコーナーに設置した6台のブース内で利用できます。

蔵書検索、利用の詳しい方法等は上越教育大学附属図書館のホームページ(<http://www.lib.juen.ac.jp>)をご覧ください。

助教授 橋本明浩

ユビキタス (ubiquitous) という言葉が近年目につくようになった。ユビキタスの語源はラテン語 (ubique) で、「hic et ubique」 (here and everywhere) 等と使用されている。つまり、いたるところに存在する (遍在する) という意味である。情報処理関連学会でユビキタスという言葉が初めて顔を出したのは 1993 年、9 年前である。米国ゼロックス Palo Alto 研究所の Mark Weiser 博士 (故人) が “Ubiquitous Computing” のコンセプトを提案したことからはじまっている。博士の主張は、「1 台の大きな電子計算機を多くの人が共有して使うことが減少し、1 人 1 台の PC を持つ時代がきている。そして、その次は、1 人で複数台数の PC を使う時代が来る」というものである。このような時代では、「オフィス・学校での環境、帰宅途中、遊びに行っているとき、いつでも同じ環境でコンピュータが使えることが要請される。この環境には、どのような仕組みが必要か?」の提案をしている。このコンセプトはかなり実現化されている。

パソコンや携帯電話に限らず、冷蔵庫や電子レンジといった家電製品、自動車、自動販売機等もインターネット接続され、ウェアラブル・コンピュータと呼ばれる “身に付けるコンピュータ” も開発されている。インターネット接続されるのは体温計、キャベツ、鍋、箸、皿等も考えられる。これらはケーブルではなく、無線ネットワークで接続される。

体温が自動的に記録され、体温計が自分自身で報告する。退院後の自宅の体温計も計測される。買い物カゴが店頭で並ぶキャベツと交信して、い

つどこで、だれが栽培し、どの経路を通り店頭で並んだかもわかる。食事に関しても、鍋、箸、皿と交信して調理方法を考慮した摂取量を自動的に計算する。夢のような話だが、基礎的な研究は進んでおり、21 世紀中には実現するだろう。

この Weiser 博士のユビキタスの発想より 10 年以上前に同じ構想を提案し、実現している日本人研究者がいる。それは坂村健博士、TRON プロジェクトだ。哀しくも政府の方針転換で脚光を浴びることが少なかった。しかし、世界が認めている素晴らしいコンセプトと技術で、産業用制御機器、携帯電話の 95% 以上が TRON の技術を使用している。



さて、看護・医療もユビキタス (遍在: Everywhere) であるべきだが、病院、施設等の特定の場所に偏在 (Maldistribution) している。高齢化が叫ばれ、介護保険、健康保険の会計的な破綻が予測されている。事後治療費用と保険、早期発見、予防の費用を考えれば、社会としては、前者は高くつくことは明らかだ。CNS (Clinical Nurse Specialist、専門看護師)、EBN (Evidence-Based Nursing、根拠に基づく看護) 等の高い専門性のキーワードとは反することだが、21 世紀中には、ユビキタスナーシング (ubiquitous nursing) という言葉が重要なキーワードになる時があるかもしれない。病院、施設等を多くの人間が共有していた時代から、1 人の人間の周りに多くの看護医療がある時代へ移るのは夢かもしれないが。

植田正治・鷺田清一共著『まなざしの記憶—だれかの傍らで』

TBS ブリタニカ 2000※1

助教授 北川公子

表紙には“photographer 植田正治 philosopher 鷺田清一”とある。

鷺田氏が始めて植田氏の写真にふれたのは1993年のこと。当時、「聴く」ことの力についての著作を進め、その困難な途上にあつた鷺田氏は、被写体との間の距離（隔たり）と被写体への深い慈しみが同居したこれら写真に添わせるように言葉を紡ぎ、本を書き上げたという（『「聴くこと」の力—臨床哲学試論』※2）。『「聴くこと」の力』にも数点の植田氏の写真が用いられているが、あくまでも鷺田氏の単著であるのに対し、共著である本書に掲載された植田氏の写真は70点をこえる。写真哲学エッセイとでもいうように気安いが、相乗効果をもって読者の思考を刺激する。

本書は、顔、跡、肌理、空、間、距離、の6つの章から構成されている。顔や跡は被写体となり、写真家（私）と被写体（他者）のあいだには間や距離がある。写真家は被写体をまなざしているが、実は被写体にまなざされていることに動機づけられてカメラを向けている。写真を見る人々もまた写真をまなざし、そして被写体に、写真家にま

なざされる。二者の間によこたわる距離に隔てられ、自分ではない他者から贈られる何かに出会う。

人が死なないでいられる理由を鷺田氏は、「生まれたときにこのわたしがここにいるというただそれだけの理由で、だれかになんの条件もつけずに世話をされたという確信があるから」と述べている。そしてもっとも弱き赤ちゃんの、「そのような弱さに、それをささえるひとが支えられる」とも。私たちは、誰かにまなざされた、「聴く」ことを与えられた、微笑んで受けとめられた、歓待を受けた、という記憶にささえられながら、今、この人の傍らにたたずんでいるのかもしれない。

“臨床”という言葉で“だれかの傍らにあること”と訳すのであれば、私たちの仕事はなんとすばらしいのだろう、と思わされる1冊である。

※1 請求記号：104-U32 登録番号：001031972

※2 鷺田清一著『「聴くこと」の力—臨床哲学試論』TBS ブリタニカ、1999（請求記号：104-W42 登録番号：001028184）

## 図書館からのお知らせ その1

### 早朝開館（試行実施）の利用状況について

皆様の要望にこたえて、9月10日（火）より、月～金曜日に早朝開館を試行実施しています。通常、9時開館のところ1時間早め、8時より開館しています。利用範囲は閲覧・複写・パソコン検索です。貸出は今までどおり9時から行っています。2月末まで実施する予定です。

9月～10月の早朝開館時間帯（8時～9時）の利用者数は、9月が222人（1日平均17.1人）、10月が245人（1日平均11.1人）でした。9月

は前期試験期間中だったこともあり、若干利用が多かったようです。ただし、日によって利用者数に大きなばらつきがあります。

ほとんどの利用者は、8時30分過ぎに来館しており、講義の前に少し予習したり、返却をしたりという利用をされています。まだ通常どおりのサービスを実施していないため、利用が少ないということも考えられますが、さらなる利用をお待ちしています。

短大地域看護学専攻 加藤綾子

私は、活字を読むのが好きである。新聞、雑誌からマンガ本にいたるまで、あらゆる文字を追っていくのは楽しい。だが、本については別であり、最近まで、1年間に1冊も本を読まないときもあった。

その理由は、学校の国語の教科書で紹介される日本文学である。教科書で紹介されるだけあって、名作と呼ばれるものが多い。しかし、全体的に暗い印象が強いのである！太宰治の「羅生門」は気持ち悪いし、夏目漱石の「こころ」では友達が自殺してしまう。そんなわけで、すっかり日本文学＝本＝暗いというイメージが定着してしまい、すっかり本嫌いになってしまった。

しかし、最近、現代小説の面白さに目覚めた。きっかけは村山由佳の小説の文庫本だった。文庫本なら安いので、学生のお財布にもやさしい。それからは、文庫本のコーナーに立ち寄ることが多くなり、真保裕一、鈴木光司、赤川次郎などお気に入りの作家ができてきた。これらの小説を読んでいると、ストーリーの面白さだけでなく、精神病院の裏事情や、輸入食品の検疫、自衛隊の実態など、自分の知らない世界の情報が入ってきて、ちょっとした情報通になれるのである。

そんなわけで、私は現在、1ヶ月に1冊のペースで本を読んでいる。

## 図書館からのお知らせ その2

## 大学開学に伴う図書整備について

新潟県立看護大学が開学するにあたり、平成13年度末に、図書が約2,110冊、視聴覚資料が約240点購入された。これは、①県立看護大学の教育課程に沿って、一般教養及び各専門分野の図書を整備すること、②より多くの看護関係者から図書館を活用してもらい、優れた人材育成を行う等、地域への看護学の情報発信基地としての役割を担うことを目的に整備されたものである。今後も大学完成前年度までの4年間で、整備が続けられる。計画としては、図書館の蔵書を約1万冊増やす(約

3万5千冊になる)予定である。平成14年3月31日現在での蔵書数は28,682冊である。

大学開学に伴い、教育内容がより専門的かつ高度になることから専門書のさらなる充実は不可欠である。特に当館は、洋書の冊数が2千冊にも満たなかったということから、洋書を重点的に整備することになった。他県の公立看護大学を参考に、和書と洋書の比率が8対2となるよう計画を進めている。

## 平成13年度分の特徴

図書約2,110冊の内、和書と洋書は1,340冊対770冊で6対4の割合であった。実際に発注段階になると絶版や品切れ等により入手不可能な資料が出てきたため、計画どおりに行かなかった部分もあるが、洋書の購入が少なかった。専門科目が多く、医学・看護学図書で60%近くを占めている。次いで、社会科学が多い。社会科学には保険

や福祉が含まれている。全体の中では数は多くはないが、教養図書として哲学分野の全集ものが数点購入されている。

約240点の視聴覚資料の中には文献検索用CD-ROMやさまざまな場面での英会話のCD、カセットテープが購入されている。

平成13年度整備図書内訳(『日本十進分類法』に基づく)

分類	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	医学	看護学	技術	産業	芸術	言語	文学
割合(%)	2.2	7.9	0.4	20.4	5.6	34.5	24.4	1.3	0.7	0.3	2	0.3

僕と読書との付き合い

大学看護学科1年 細谷志乃

僕と読書との付き合いは、僕がブー太郎（実は今でもブー太郎）の時、K塾の大検コースでのM先生との出会いから始まった。そこでの彼の授業は、まず授業が始まる前に教室の机を片づけ、一面に畳を敷き、そして、皆、畳の上に寝転がり、お茶をすすり、彼が持ってくる名古屋のお菓子、青柳のういろや赤福（これが格別にうまい！）を食べながら、本を一人ひとり声を出し読んでゆくというものであった。机の前に座って本を読むという、読書に対するカチカチの堅苦しいイメージは、この時、壊れた。ここから、僕と読書の本格的な付き合いが始まった。

読書は、僕に色々な人との出会いの場を、与えてくれた。僕は、読書を通じて色々な人と出会っ

てきた。吉行淳之介、三島由紀夫、吉田健一、坂口安吾、辺見庸、モーム、サンデ・ペグジュリ、ファインマン、ガロア……。これまでに、時間、空間、ジャンルを越えて、数えきれない人達との出会いがあったし、そして、これからもあるだろう。いろいろな人との出会いがあるから、「読書は人生を豊かにする。」（誰かの言葉だったような気がするが・・・）と思うだろうが、僕は、「読書は人生を忙しくするものである。」と考えている。本を読みすぎたせいで頭の中は、アレモ、コレモで、チャンポン状態である。今までの読書を通じて僕が得たものは、「まともな人生を送りたければ、読書は控えたほうが良い。」という教訓のみであった。

図書館からのお知らせ その3

図書館ホームページ (<http://www.niigata-cn.ac.jp/library.htm>) より

トップページより Web OPACにtryしよう!

今年度からインターネットで当図書館の蔵書検索が出来るようになった。図書館に来なくても、新着図書が何か、見たい図書があるか、さらにそれが貸出中かどうか確認することができるのである。ぜひWeb OPACをトライしてみよう!

メニューの「OPAC検索」をクリックする。すると「フリーワードで探す」画面が開く。これは、入力した語句を自動的に検索の対象になっている書名、著者名、出版社など項目すべてから検索する方法である。逆にあらかじめ検索する項目を限定したい場合は「条件項目で探す」をクリックする。書名、著者名、出版社、出版年月日などの項目欄が設定されてあるので、適宜語句を入力して検索する。

検索後、表示された件数が多すぎてそれをさらに絞り込みたい場合は「現在の結果から検索」をクリックする。検索結果からさらに重ねて検索する方法である。これは「フリーワードで探す」でも「条件項目で探す」でもどちらの後でも実行できる。

検索画面下には資料区分を選ぶ場所がある。ここで資料区分を限定することができる。特に雑誌は図書館だけでなく研究室で購読しているものも検索対象に含まれていて、次々入力されているので量が多い。多ければ検索に時間もかかることになる。たとえば、あらかじめ「雑誌は探さない」と決めている場合は、「逐次刊行物」のチェックをはずすと検索時間が短縮できる。

新着図書が知りたい時には「新着図書」をクリックする。これは、何も入力しなくても自動的に検索・表示してくれる。

図書館のトップページに戻りたい場合は、画面上部にある「トップへ」をクリックする。

その他、詳しい検索の仕方については、1階奥側（新着図書書架横）の利用者用パソコン（USER 3, 4）に備えてある利用マニュアルを参照してほしい。また、画面上でも確認できる。画面上部の「使い方について」をクリックし、さらに「検索のしかた」をクリックする。

「医学中央雑誌 Web」は国内の医学関連分野の文献(原著論文、症例報告、会議録(学会抄録)、総説等)の検索データベースである。検索対象データは 1983 年～2002 年、毎年 1 万件の看護文献が収録されている。

☆ポイント(1) アクセス手順……リンク集の雑誌・文献検索データベースの『医学中央雑誌 Web』をクリック → Welcome to 医中誌 Web の画面表示 Enter をクリック → 医中誌 Web のホーム—Information「■医中誌 Web Ver.2 リリース」画面上部の「Ver.2 へログイン」をクリック、あるいは「→Ver.2」をクリックする。

☆ポイント(2) 終了方法……学内専用—学内 LAN からのみ利用可能(同時アクセス数に制限)のため終了時に注意が必要。終了時は「終了」もしくは「LOGOUT」をクリックし、ログアウト画面で「利用終了」ボタンを必ず押す。ブラウザを「×」で閉じても画面上は終了したように見えるが、データベース側ではしばらく 1 人分のアクセスが確保されたままになっている。再度、ブラウザを開いて LOGIN し直しても状況は変わらないため要注意。

☆ポイント(3) 検索モードの選択 (“BASIC MODE”あるいは“ADVANCED MODE”の選択)……BASIC MODE は、データベースに関する特別な知識や経験が無くても簡単に検索できるモード。検索結果に対してキーワードを追加していく感覚で検索できる。ADVANCED MODE ではさらに、複雑な検索ができる(候補語リストの表示と選択等)。候補語の一つとして「シソーラス」がある。シソーラスとは、一つの概念を一つの語に統一したもの。これを使って検索すれば、たとえ表現が違っていても同じ概念を表すキーワードは自動的にすべて検索してくれる。検索もれを最小限に押さえることが出来る方法である。

その他、初期設定では検索対象年が「1997 年～2002 年」となっていることや、印刷はブラウザの印刷ボタンを使用する等の留意点がある。

コンピュータ検索をより使いこなすためには慣れが必要。より詳しい検索方法、注意点等をまとめた利用ガイドは館内に備えてある。また、分からない点は遠慮なく係員に質問し、探して求めていた文献を簡単に見つけることの出来る快感を味わってみよう!

## ★本学教員著作寄贈図書(平成 14 年 4 月～10 月)

次の方々から著書を御寄贈いただきました。ありがとうございました。

- 中島紀恵子学長  
『中島紀恵子小論・小話集』2002
- 田中キミ子教授  
『高齢者とのコミュニケーションスキル』  
中央法規出版 2001(2冊)
- 橋本明浩助教授  
『現代情報処理入門』朝倉書店 1998
- 中村博生助教授  
『看護英会話』考古堂書店 2002(5冊)

### 【編集後記】

・読書のしすぎで「チャンボン状態」になるなんてすごいですね。でもチャンボンもいずれは固まるものから、さらに読書すれば案外固まるかも!? 看護の専門書が多い当館で、意外に面白い本が見つかるかもしれません。懲りずにチャレンジしてみてください。

・6 月に館内の所蔵検索画面を変更しました。その後、学生から「使いにくくなった」とメールをいただきました。今までは語句 1 語のみの入力だったものを、書名や出版年をあらかじめ入力できたり、キーワードの掛け合わせができるようになったのですが、イマイチだったようで残念です。皆さんはどうですか?

・本号も増ページとなりました。今後これで定着するのでしょうか? 図書館だよりに掲載して欲しい or こんな情報が欲しいなどの御意見がありましたら tosy@niigata-cn.ac.jp までお寄せ下さい。苦情も…受け付けます。(Y)

図書館だより 第 12 号  
平成 14 年 12 月 16 日発行  
編集：図書委員会  
発行：新潟県立看護大学図書館  
新潟県立看護短期大学図書館